

# 乗搭体験機体航空者外部部



▲UH-1 の前で記念写真を撮る参加者の皆さん



発行所 島根県隊友会  
編集協力 出雲駐屯地  
広報室  
印刷所 (有)福間秀文堂



▲いよいよ take off !!



▲ワクワクドキドキしながら乗り込む参加者

駐屯地（司令 安河内 2 佐）は 6 月 11 日に第 13 飛行隊（防府）の支援を受け平成 28 年度航空機体験乗搭を行った。

当日は、隊員家族のほか、駐屯地に対する支援・協力者など 35 名が参加した。

参加者はフライトに先立ち、ヘリコプターの安全教育を受講した後、緊張の面持ちで待望のフライトに臨んだ。

爽やかな天候に恵まれ、絶好のフライト日和の中、陸上自衛隊の多目的輸送ヘリコプター UH-1 の低いローター音が響き渡り、9 時 30 分から 1 組目のフライトが開始された。

各組は駐屯地グラウンドを離陸した後、出雲大社、稲佐の浜、神戸川、神西湖など豊かな郷土の景観を上空から約 15 分間楽しんだ。

参加者からは「普段目にするこの高い上空からの景色は本当に感動的でした。」

「スムーズな離着陸で乗り心地も良く、これなら災害派遣等で患者搬送も OK はず。また、派遣現場では災害箇所の実態がよく分かるだろうと思いました。」等の声が聞かれた。

# 施設隊訓練検閲受閲



▲行軍する施設隊



▲統裁官に報告する施設隊長

第304施設隊（隊長 渡邊 2佐）は平成28年6月17日から23日までの間、第4施設団長が統裁する訓練検閲を受閲した。17日に行われた隊容検査に引き続き、長池演習場から大久保駐屯地までの約30kmの行軍を実施した。その後「方面隊の全般支援」の命を受け、施設小隊Cは指揮所用簡易掩盖掩壕×1の構築及び13施設隊の増援、交通小隊は作業室用簡易掩盖掩壕×1、8高射群射撃陣地の各施設構築、渡河器材小隊は自走架柱橋及び混合橋の架設、第301施設小隊は作業室用簡易掩盖掩壕×1を構築した。



▲陣地で敵を警戒



▲泥ぬい地での陣地構築

状況開始から梅雨前線の影響による降雨により泥ぬい化し隊員の足場の状況も悪化した。持ち前の施設魂により作業を継続し隊長要望事項「被支援部隊の目線に立った支援」を具現すべく、被支援部隊のニーズにマッチした作業を追及した。

各隊員は、それぞれ積み上げてきた訓練成果を発揮し所命の任務を達成、状況を終了した。

これからも「諦めない、一丸となってやり遂げる」第304施設隊の伝統を引き継いで行きたい。

# 偵察隊・飛行隊協同訓練



▲オートバイ積載



▲オートバイ卸下

私は6月10日、第13飛行隊と協同で実施されたオートバイ積載訓練に参加しました。

実機訓練を迎える一週間前から練習を開始しました。この訓練は入隊2年目に参加したことがあったので少

し自信を持って訓練に臨みましたが、しかし実際にやってみると思うようにいきませんでした。

なぜ、このように様々な問題点が出るのだろうか、考えました。そして答えはすぐに出ました。それは以

## オートバイ積載訓練に参加して

偵察隊 3等陸曹 山下翔太

今回、リペリング訓練に参加し当初は不安な部分がありました。指導部の方たちの熱心な指導のおかげで無事訓練を終えることができました。

訓練参加者が全員、陸士という事もあり経験も知識も少なく、とても危険な訓練でしたが教官の教えを守り、安全第一を心掛け実施したことで一件の事故もなく訓練を終了できたのだと思っています。



▲降下用意！



▲降下！

## リペリング訓練に参加して

偵察隊 陸士長 坂根海斗

自分自身もこの訓練を経験し、少しではありますが偵察隊員としての知識、技術の向上ができたと思っています。

います。さらなる練度向上を目指し、日々精進していきたく思います。

最後に訓練指導部、第13飛行隊の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

自分の動作はもちろんのこと組員の状況を把握することの大切さを学び、またこの経験を次の訓練や後輩に指導していけるようにしていきたいです。

守りたい人がいる

地域に根ざす 出雲主屯地

守りたい人がいる

# 方面隊最先任上級曹長 来駐



▲偵察隊の訓練を視察する  
方面隊最先任上級曹長



▲駐屯地の曹士と懇談する  
方面隊最先任上級曹長

平成28年6月2日、方面隊最先任上級曹長（方面隊下士官最高位）叶 准尉が部隊の現況把握のため出雲駐屯地に来駐した。

方面隊最先任上級曹長は出雲駐屯地先任上級曹長（偵察隊 新谷准尉）から駐屯地概要説明を受けた後、駐屯地所在の曹士との懇談、駐屯地各部隊の訓練状況等を視察した。

昼食時には隊員食堂において各部隊代表者と和やかに会食し、午後は資料館の研修及び各部隊先任上級曹長との懇談を行い、認識の共有及び連携強化を図った。

## 隊内生活体験支援

駐屯地は7月2日、3日の両日、出雲市長浜スポーツ少年団（バスケットボールチーム）が実施した隊内生活体験を支援した。

支援は、偵察隊・秋田3曹以下4名の隊員が担当し、集団行動及び規律心の向上に着意して指導した。

駐屯地に到着した14名の小学生達は、聞きなれない言葉と分刻みの行動で、普段と勝手の違う生活環境に少し困惑した様子であったが、

実施項目の基本教練・徒歩行進を元氣よく行った。

1泊2日の短い間であったが、生徒たちは部活動で培われた協調心とチームワークで順応し、生活体験の目的を良く理解し、積極的に物事に取り組み、テキパキと動作ができるようになった。



▲敬礼動作を演練する参加者



▶協力してベッドメイキングする参加者

## 祝 定年退官

永年の勤務  
お疲れ様でした。

施設隊

准陸尉 黒川 政弘

帰任先：出雲市小山町



業務隊

陸曹長 金山 幸浩

帰任先：出雲市下古志町



業務隊

准陸尉 三原 勉

帰任先：出雲市東園町



# 隊友会活動

## 総会・講演会の実施

鳥根県隊友会（会長 持田佳郎）は5月29日、出雲市のラピタ・ウエディングパレスで定期総会を開催。議案の審議等を全会一致で承認。プロジェクトによる隊友会歌「ああ この血潮」を力強く合唱し閉会。

その後実施した講演会は「政治決戦・参議院選挙を占う 安保法制・憲法改正は争点になりうるか」と題して、講師はNHK政治解説委員の安達宜正氏。高確度の解説に聴衆は深い感銘を受けた。

また、来賓を迎え関係者の参加を得て懇親意見交換会を実施し祝辞、祝電披露等終始和やかなうちに終了。



▲ 講演する安達氏

## 隊友会歌

「ああこの血潮」

作詞 鈴木 井  
作曲 古関 裕而

(一)

ああこの血潮 この生命  
うけたはるかな 故郷に  
幸あれと 肩くみて  
呼ばば答える 山脈の  
雲は流れる 陽がのぼる

(二)

桜も咲けば 菊もさく  
みどりに映える 山河に  
そびえる富士を 仰ぎ見て  
手に手をとって 行く道に  
はばたく鳩が 共に舞う

(三)

南と北の 島々に  
新たな息吹 あがるとき  
おれとお前の 隊友が  
船出の歌を 高らかに  
歌えば四方の 波静か

## 災害派遣部隊の激励

事務局次長 築森寛喜

鳥根県隊友会は4月18日、熊本地震に係る災害派遣として出雲駐屯地所在部隊が出勤し、南阿蘇村において活動中であることを承知するや、留守部隊長に激励品を贈呈した。

## 護衛艦「いずも」

### 大社沖に投錨

海上自衛隊最大の護衛艦「いずも」(約1万9500t)が休養と補給のため6月28日、出雲市大社漁港約2キロメートル沖に投錨し停泊した。

今回は1日だけの停泊ではあったが、1年ぶりに大社沖に姿を見せた「いずも」の巨大な雄姿は改めて見学者達に驚きと感動を与えていた。



▲稲佐の浜より「いずも」を臨む



▲大社沖に浮かぶ「いずも」

8月定年退官予定者

偵察隊

1等陸尉 米原 利幸

9月定年退官予定者

施設隊

陸曹長 松本 秀延

読み終わったら  
家族にも見せよう